

多様な言語文化背景をもつ子どもたちのリテラシーフォーラム3  
「子どもたちの日本語の発達を可視化する一語彙・文法の力に焦点を当てて」  
2016年2月28日 お茶の水女子大学

## 日本語を母語としない子どもの 語彙とコロケーションの知識に関する研究

研究代表者：西川朋美（お茶の水女子大学）  
研究協力者：青木由香（富山県西部教育事務所）  
細野尚子（鎌倉市立大船小学校）  
樋口万喜子（横浜国立大学）

2011～2015年度科学研究費補助金・基盤研究C（課題番号23520619）

## 全体会 パネルディスカッション

発題者：西川朋美

### 本プロジェクトのきっかけ

・長年、現場（主に小学校）で子どもを見ていて、日本で生まれ育っているJSLの子どもにも「苦手な日本語」があると感じた。

・苦手な部分は（JSLの子ども向けの）「支援」が必要

・日本生まれ・育ちのJSLの子ども「苦手な日本語」を実証する必要性



語彙に注目する理由？

・日本生まれ・育ちの場合、日本語力に課題があることに気づかれにくい。

・「苦手な日本語」を「可視化」することで必要な「支援」につなげる。

### 第二言語習得研究からの知見(1)

・日常的に第二言語に接する環境で、長期的に考えれば、子どもが大人と比べて第二言語習得に有利なことは事実（西川 2015, 長谷川 2008）。

・とは言え、子どもの頃から第二言語を習得すれば、誰でも（完全に）ネイティブのようになれることが保障されているわけではない（例：Abrahamsson & Hyltenstam 2008, 2009, Hyltenstam 1992, Nishikawa 2014）。

・子どもが第二言語である仏語の高い能力を身につけることを実証してきたフレンチ・イマージョンでも、習得されにくい言語項目があることが報告されている。語彙力もその一つ（例：Harley 1993, Harley & King 1989）。

### 第二言語習得研究からの知見(2)

・バイリンガル環境で育つ移民の子どもL2語彙知識は、モノリンガルの子どものと比べて弱く、また、L2では弱くてもL1ができるというわけでもない（Verhallen & Schoonen 1993, 1998）。

・バイリンガル環境で育つ移民の子どもL2語彙は、モノリンガルの子どものと比べて少なく、また、その差は、家庭に関する語彙において見られる（Bialystok et al. 2010）。

・バイリンガル・モノリンガル共に、語彙知識はインプット頻度と強く関係する（Vermeer 2001）。

→日本生まれ・育ちのJSLの子どもの場合は？

### 年少者日本語教育研究からの知見

・JSLの子どもが日本で学校生活を送るために必要な語彙のリスト（例：工藤 1999；パトラー 2010；樋口他 2011）

→リストだけでは、子どもの実際の語彙力が分からない。

・日本生まれ・育ちのJSLの子どもの語彙力に関する調査報告（例：生田 2001, 一二三 1996）

→調査方法の性格上、知らない・使えない語は見えにくい。

・欧米での研究も、自由産出（例：Harley & King 1989）や標準テスト（例：Bialystok et al. 2010, PPVT）を用いているものが多く、特定の語彙に焦点化された調査は少ない。

### 日本生まれ・育ちの子どもが苦手な日本語？

- ・日本語力の差はモノリンガルの子どもにもある（特に語彙）。
- ・日本語を家庭言語としないJSLの子どもならではの課題？

→日本語モノリンガルの子どもであれば、就学前に自然に身につけていると思われる語について、調査する。

- ・本プロジェクトでは、「(和語)動詞」に注目
  - 文の骨格となる大切な要素
  - モノリンガルの子どもの個人差が少ない
  - JSLの子どもの複数の語彙リストでの共通部分が多い

### 調査の目的

・日常会話では日本語モノリンガルの子どもと変わらない日本語力を持つ、日本生まれ・育ちのJSLの子どもの日本語語彙力（具体的には、和語動詞の産出力）を客観的なデータとして示す。

・より具体的には、日本で生まれ育っていても、日本語モノリンガルの子どもと日本語語彙力において差があること、さらに具体的には、その差は、モノリンガルの子どもにとっては“簡単な”語においても見られることを実証する。

### 科研プロジェクトの概要

①JSLの子どもの語彙データベースの作成 → 分科会

②調査票の作成

③調査の実施

JSLの小中学生  
日本語モノリンガルの小中学生  
参考（調査票の妥当性）：日本語モノリンガルの大学生 18名  
参考（アイテム正答率）：日本語モノリンガルの幼稚園児 60名

④分析結果

合計得点での量的分析の結果  
JSLの子どもの個人差要因  
各アイテムの分析結果（誤答・正答率） → 分科会

### ① JSLの子どもの語彙データベースの作成 (分科会で報告)

### ②調査票の作成（動詞31語，70アイテム）

表1：調査票に含まれる動詞（下線=複数に分類される動詞）

多義動詞	かける, きる, さす, ひく, おちる, <u>しめる</u> , たつ, <u>たてる</u>
着脱動詞	かぶる, <u>きる</u> , とる, ぬぐ, はく, はずす
自他動詞	あく, あげる, <u>しめる</u> , <u>しまる</u> , <u>たつ</u> , <u>たてる</u>
授受動詞	あげる, くれる, もらう
ポルトガル語と使い分けが異なる動詞	<u>おちる</u> , ころぶ, たおれる
その他、難しいと予想される動詞	こぐ, さく, たく, ほどく, むすぶ
易しいと予想される動詞	あるく, およぐ, すわる, はしる, よむ

### ②調査票の作成：アイテム例



### ③調査・分析対象者

- 分析対象は、小2～中1（JSL・モノリンガル）
- 分析対象としたJSLの基準  
滞日歴5年以上（実際は、ほとんどが日本生まれ）  
担当教員等によって「日常会話では日本語母語話者と変わらない」と評価されている。
- 以下の子どもは分析対象外（JSL・モノリンガル共）  
見開き2ページ以上未記入など、データに不備がある。  
特別支援教育の対象となっている。

### ③分析対象者の合計

JSL：163名

ポルトガル語  
スペイン語  
ベトナム語  
タガログ語  
中国語など

モノリンガル：1,333名

### ③調査の実施・採点方法

- 2013年3月～10月
- クラス単位での一斉調査，一部のJSLは個別
- 採点方法

以下を正答として採点

イラスト作成時に想定した動詞  
(例：掃除機をかける)  
それ以外の自然な回答 (例：掃除機をつかう)

#### 追加実施：幼稚園児調査

- 2013年9月～2014年3月
- 口頭での対面式調査
- 3歳児20名，4歳児20名，5歳児20名
- 各学年を2グループに分けて，42アイテムを調査

### ④合計得点：記述統計

	モノリンガル					JSL				
	人数	平均	SD	平均	SD	人数	平均	SD	平均	SD
小2	201	36.51	3.458			21	31.43	4.249		
小3	208	37.75	3.084			18	32.83	4.287		
小4	257	38.37	1.927	66.74	3.130	24	36.21	2.702	62.46	4.773
小5	265	38.52	1.769	67.14	3.067	34	35.21	4.702	61.21	7.527
小6	240	39.18	1.227	68.07	2.009	44	36.16	5.702	63.00	9.810
中1	162	39.54	0.679	68.72	1.475	22	35.91	4.242	62.77	7.355

### ④合計得点：MonoとJSLの差（70/40問）

- 二要因分散分析（“言語背景”×学年）
- “言語背景”（Mono/JSL）  
全ての学年において Mono > JSL

※70問(小4-中1)，全学年共通40問(小2-中1)  
のどちらで分析を行っても，上の結果は同じ。

・学年間の合計得点の差(伸び) → 分科会

### ④分析結果（全体会分のまとめ）

- 全ての学年において，MonoとJSLの間には差がある。

・ただし，JSLは個人差も大きい（→標準偏差）。  
→ 詳細は分科会で

・具体的にどのような動詞・用法において，JSLとMono  
の差が見られるのか？ → 分科会，概要のみ次に紹介

#### ④各アイテムの分析結果：概要(1)

・各アイテムの正答率

JSLとMonoの差が小さいアイテム  
JSLとMonoの差が大きいアイテム



「場面と頻度」

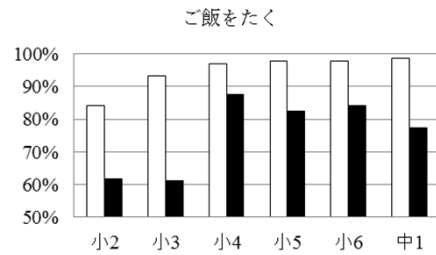
例：「ご飯をたく」「2に3をかける」

「母語の影響」

例：着脱動詞「ぬぐ → とる」

#### ④各アイテムの分析結果：概要(2)

・各アイテムの正答率においても、合計得点と同じように、低学年と比べるとJSLの正答率が上がるが、モノリンガルには追いつかないアイテムが見られる。例：「ご飯をたく」



#### 分科会の概要

④調査結果（続き）

学年と合計点の上昇（伸び）  
JSLの子ども個人差  
各アイテムの正答率（の伸び）  
誤答の傾向

⑤学校教科書の分析結果

- ① JSLの子ども語彙データベースの作成
- ⑥ 現場での支援への活かし方
- ⑦ 今後のさらなる基礎研究の充実に向けて

#### 引用文献(1)

- ・生田裕子 (2001) 「ブラジル人中学生の語彙の発達—作文のタスクを通して—」『日本語教育』110号, 120-129.
- ・工藤真由美(1999)『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』ひつじ書房
- ・西川朋美 (2015)「おとなの語学力の発達」『子どもと発達』13(3), 168-172.
- ・長谷川(西川)朋美 (2008)「第二言語習得における臨界期仮説・年齢要因—日本語を対象とした研究に向けて—」『第二言語習得・教育の研究最前線—2008年版—：言語文化と日本語教育 2008年11月増刊特集号』, 107-137.
- ・バトラ—後藤裕子(2010)「小中学生のための日本語学習語リスト(試案)」『母語・継承語・バイリンガル教育研究(MHB)』第6号, 42-58
- ・樋口万喜子・古屋恵子・頼田敦子編(2011)『進学を目指す人のための教科につなげる学習語彙 6000語(日中対訳)』ココ出版
- ・一二三朋子 (1996)「年少者の語彙習得過程と言語使用状況に関する考察—在日ベトナム人子弟の場合—」『日本語教育』90, 13-24.
- ・Abrahamsson, N., & Hyltenstam, K. (2008). The robustness of aptitude effects in near-native second language acquisition. *Studies in Second Language Acquisition*, 30, 481-509.
- ・Abrahamsson, N., & Hyltenstam, K. (2009). Age of onset and nativelikeness in a second language: Listener perception versus linguistic scrutiny. *Language Learning*, 59, 249-306.

#### 引用文献(2)

- ・Bialystok, E., Luk, G., Peets, K. F., & Yang, S. (2010). Receptive vocabulary differences in monolingual and bilingual children. *Bilingualism: Language and Cognition*, 13, 525-531.
- ・Harley, B. (1993). Instructional strategies and SLA in early French immersion. *Studies in Second Language Acquisition*, 15, 245-259.
- ・Harley, B., & King, M. L. (1989). Verb lexis in the written compositions of young second language learners. *Studies in Second Language Acquisition*, 11, 415-439.
- ・Hyltenstam, K. (1992). Non-native features of near-native speakers: On the ultimate attainment of childhood L2 learners. In R. Harris (Ed.), *Cognitive processing in bilinguals* (pp. 351-368). Amsterdam: Elsevier.
- ・Nishikawa, T. (2014). Nonnativeness in near-native child L2 starters of Japanese: Age and the acquisition of relative clauses. *Applied Linguistics*, 35, 504-529.
- ・Verhallen, M., & Schoonen, R. (1993). Lexical knowledge of monolingual and bilingual children. *Applied Linguistics*, 14, 344-363.
- ・Verhallen, M., & Schoonen, R. (1998). Lexical knowledge in L1 and L2 of third and fifth graders. *Applied Linguistics*, 19, 452-470.
- ・Vermeer, A. (2001). Breadth and depth of vocabulary in relation to L1/L2 acquisition and frequency of input. *Applied Psycholinguistics*, 22, 217-234.

多様な言語文化背景をもつ子どもたちのリテラシーフォーラム3  
「子どもたちの日本語の発達を可視化する—語彙・文法の力に焦点を当てて」  
2016年2月28日 お茶の水女子大学

### 日本語を母語としない子どもの 語彙とコロケーションの知識に関する研究

研究代表者：西川朋美（お茶の水女子大学）  
研究協力者：青木由香（富山県西部教育事務所）  
細野尚子（鎌倉市立大船小学校）  
樋口万喜子（横浜国立大学）

2011～2015年度科学研究費補助金・基盤研究C（課題番号23520619）

### 分科会

発題者：西川朋美，青木由香

### 分科会の進め方

14:50～ ④分析結果の続き（西川・青木）

- ⑤学校教科書の分析結果（青木）
- ①JSLの子どものデータベースの作成（西川）

意見交換

- ⑥現場での支援への活かし方
- ⑦今後のさらなる基礎研究の充実に向けて

まとめ

16:30～ 全体会（分科会報告）

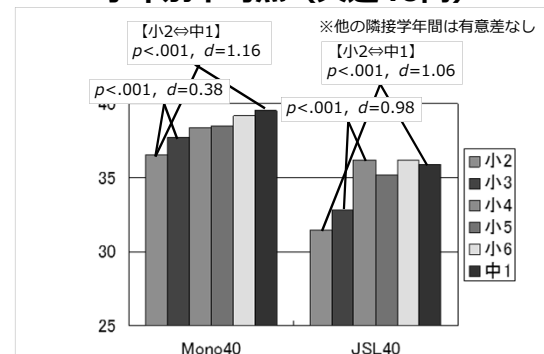
### ④合計得点：記述統計（再）

	モノリンガル					JSL				
	人数	平均	SD	平均	SD	人数	平均	SD	平均	SD
小2	201	36.51	3.458			21	31.43	4.249		
小3	208	37.75	3.084			18	32.83	4.287		
小4	257	38.37	1.927	66.74	3.130	24	36.21	2.702	62.46	4.773
小5	265	38.52	1.769	67.14	3.067	34	35.21	4.702	61.21	7.527
小6	240	39.18	1.227	68.07	2.009	44	36.16	5.702	63.00	9.810
中1	162	39.54	0.679	68.72	1.475	22	35.91	4.242	62.77	7.355

### ④合計得点：学年間の伸び（40問）

- ・二要因分散分析（言語背景×“学年”）の結果
- ・“学年”（隣接する学年ペア、及び、小2と中1）  
JSLも低学年では伸びるが、Monoと比べると伸び悩んでいる様子がうかがえる。（→グラフ参照）
- ※ 70問（小4-中1），全学年共通40問（小2-中1）のどちらかで分析を行っても，基本的な傾向は同じ。

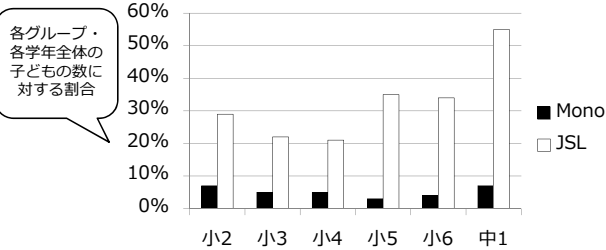
### 学年別平均点（共通40問）



・確かにJSLも伸びているが，全ての学年間で，モノリンガルとの差がある。つまり，追いついていない。

#### ④ 合計得点：最下位層の割合

- ・最下位層 = 「モノリンガルの平均点-2SD」以下（学年ごとに算出）
- ・JSLにもモノリンガルにも、得点の低い子はいるが、最下位層に位置づけられる子どもの割合が大きく異なる（グラフは共通40問の結果より）。



#### ④ 合計得点の分析の結果（全体のまとめ）

- ・MonoもJSLも、小2から中1で、得点が大きく伸びている。
- ・とはいえ、全ての学年において、MonoとJSLの間には差がある。【全体会で報告済】
- ・JSLが（特に低学年で）伸びているからと言って、安心してはいけなことを、量的分析結果は明確に示している。
- ・ただし、JSLの得点は、個人差も大きい。
- ・では、具体的にどのような動詞・用法において、JSLとMonoの差が見られるのか？

#### ④ 分析結果

##### —各アイテムの正答率—

#### ④ 各アイテムの分析結果

- ・分析の手順
  - (1) 各アイテムの正答率を算出  
(JSL/Mono別, 学年別/学年合算)
  - (2) JSLとMonoで差があるアイテム  
(学年合算正答率の差5pt以上)  
→全70アイテム (小4~中1) 対象  
(低学年ではMonoの正答率が低いアイテムもある。)
  - (3) 正答率が学年とともに上昇する(伸びる)アイテム  
(小2と中1の正答率の差10pt以上)  
→全学年 (小2~中1) のデータが揃う40アイテム対象

#### JSLとMonoで差があるアイテム (34アイテム)

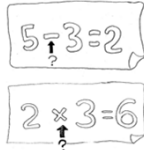
Pt差	※JSLの正答率 (小4~中1合算), Monoとのポイント差	
20以上	「(ハチマキを)しめる」J57.3%, 26.5pt	「(トランプを)きる」J59.7%, 25.8pt
	「(ボートを)こく」J68.5%, 22.6pt	「(目薬を)さす」J77.4%, 21.0pt
10以上	「(泡を)たてる」J75.8%, 19.1pt	「(橋を)かける」J76.6%, 18.9pt
	「(旗を)たてる」J62.9%, 18.0pt	「(日か)さす」J79.8%, 16.9pt
	「(ハンガーに)服を)かける」J81.5%, 16.0pt	「(シートベルトを)しめる」J81.5%, 15.7pt
	「(靴ひもを)ほどく」J80.6%, 15.0pt	「(ご飯を)たく」J83.1%, 14.7pt
	「(ボタンを)はずす」J74.2%, 14.3pt	「(風で木が)たおれる」J81.5%, 14.0pt
	「(辞書を)ひく」J74.2%, 13.3pt	「(泡が)たつ」J84.7%, 11.3pt
	「(トナカイがそりを)ひく」J75.0%, 10.9pt	「(水を)きる」J88.7%, 10.9pt
	「(帽子を)かぶる」J84.7%, 10.2pt	「(コンセントに)さす」J83.1%, 10.1pt
	「(ドアが)しまる」J87.1%, 10.1pt	「(掃除機を)かける」J87.9%, 9.0pt
	「(スイッチを)きる」J87.1%, 8.9pt	「(布団を)かける」J88.7%, 8.7pt
5以上	「(靴を)ぬぐ」J88.7%, 8.7pt	「(魚を串に)さす」J90.3%, 7.7pt
	「(プレゼントを)くれる」J90.3%, 7.7pt	「(スポンを)はく」J88.7%, 7.3pt
	「(網を)ひく」J87.9%, 6.7pt	「(ボタンを)かける」J87.1%, 6.4pt
	「(電話を)かける」J88.7%, 5.8pt	「(花が)さく」J91.9%, 5.7pt
	「(プレゼントを)もらう」J90.3%, 5.6pt	「(服を)ぬぐ」J92.7%, 5.3pt

#### 差のあるアイテムの傾向



### 【傍証】 学校場面で用いられる語・用法

- ※多義語「ひく」「かける」
- 「(5から3を)ひく」 (98.4%, 1.1pt)
- 「(2に3を)かける」 (98.4%, 1.4pt)



⇒「学校で」「よく」使用されていれば、教科特有の用法であっても、JSLの正答率は高く、Monoとの差がない。

<場面> と <頻度>

### JSLの誤答のパターン

JSLとMonoの誤答のパターンは概ね一致

例)

- 「(ハカ-に服を)かける」 × 「つける」「いれる」「きせる」
- 「(網を)ひく」 × 「とる」
- 「(プレゼントを)くれる」 × 「くばる」
- 「(日が)さす」 「(橋を)かける」 × 空欄多

⇒Monoが間違えるポイントはJSLも間違えるポイント

### 母語の影響

- 「(靴を)ぬぐ」 (88.7%, 8.7pt)
- 「(服を)ぬぐ」 (92.7%, 5.3pt)

◆JSLの誤答「(靴を)とる」「(服を)とる」

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
JSL	0	3	4	2	6	3	3	0	0
Mono					2				

※JSLの家庭言語…ほぼ、ポルトガル語・スペイン語

☹ 母語の影響

### 類似する動作を表す語



- 「(シャツを)きる」 (96.0%, 3.8pt)
- 「(スポンを)はく」 (88.7%, 7.3pt) × 「きる」
- 「(靴を)はく」 (98.4%, 1.2pt)

着脱動詞：  
Mono幼稚園児の正答率・高  
↓差↑  
伸び悩むJSL

☹ 語の使い分け

### 「正答率の上昇」と「Monoとの差」に基づいた4つのカテゴリー

	JSLとMonoの差が小さい(5pt以下)	JSLとMonoの差が大きい(5pt以上)
↑の正答率が	【A】 「車のエンジンをかける」「電話をきる」「眼鏡をとる」「風邪をひく」	【B】 「トランプをきる」「ボートをこぐ」「目薬をさす」「ご飯をたく」「ハンガーに服をかける」「トナカイがそりをひく」「橋をかける」「コンセントにさす」「掃除機をかける」「網をひく」「スイッチをきる」「電話をかける」
↑の正答率が	【C】 「シャツをきる」「針をさす」「帽子をとる」「紙をきる」「ドアをしめる」「くじをひく」「傘をさす」「靴をはく」「眼鏡をかける」「塩をかける」「線をはく」「ドアをあける」「ピアノをひく」	【D】 「水をきる」「帽子をかぶる」「靴をぬぐ」「布団をかける」「服をぬぐ」「スポンをはく」「鍵をかける」

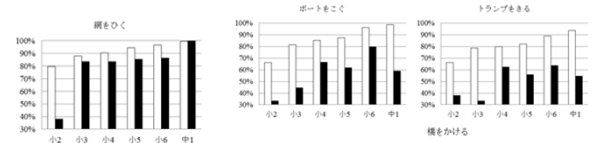
※下線はMono幼稚園児の正答率80%以下。また、JSLとMonoの差は小2～中1で計

### 正答率の上昇

Monoも幼稚園時点ではそれほど正答率が高くないが、その後伸びて、中1で100%近くに達するものがある。

JSLがMonoに追いつくもの

JSLがMonoに追いつかないもの(例)



子ども自身が経験しない動作を表すアイテム  
→Monoは小学校入学後も順調に正答率を伸ばすが…

⑤ 学校教科書の分析結果

—「ひく」を例に—

教科書分析について

目的：「JSLが“簡単な”語を十分に習得していない」ということと「JSLの教科書学習の不振」にはどのような関係があるかを考える。

方法：①『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』を対象としたコーパス検索オンラインアプリケーション「中納言」を用い、特定のサブコーパス「教科書」の中の「ひく」の用例を収集する。  
②『岩波国語辞典』の意味分類をベースに、<学年・学校種><教科>の観点から用例を分析する。

学年・学校種別（全体像）

	小1～3	小4～6	中学	高校	全用例数	
【1】	【1ア】多くは種別・種族の「類」の属を持ち、自分の方に向ける。	3	3	39	45	
	【1イ】その物の方に向つて作用を及ぼす。		5	5	5	
	【1ウ】物の注意をそれに向かせるような働きをする。類・種をみる。		3	3	6	
【2】	【2ア】自分の体内に取り込む。	2	2	4	4	
	【2イ】出している手足を自分の方にもどす。また、足や体そのものの位置から自分の方に向かす。	1	1	2	4	
	【2ウ】もとの位置や状態に移しもどす。				0	
【3】	【3ア】物を抜き取る。	1		7	8	
	【3イ】取りのけて減らす。引き算をする。	11	6	9	4	30
	【3ウ】(例として)選び出して示す。					0
【4】	【4ア】多くの中からさがして選び抜く。			1	1	
	【4イ】引っ張って移動させる。			1	8	9
	【4ウ】地をすって行く。引きずる(ように動かす)。			1	1	1
【5】	【5ア】途中で切らず長く運ぶ。	10	1	25	25	61
	【5イ】延ばして通ずるようにする。引き込む。			1	3	4
	【5ウ】一筋に続くものを受ける。			1	1	1
【6】	【6ア】延べ張る。張り渡す。					0
	【6イ】弓つるに矢をつがえて張る。また射る。			1	1	1
	【6ウ】延べて張りつける。			1	1	1
【7】	【7ア】のこぎりで切る。特殊な刃物で削って物を作る。					0
	【7イ】爪薬師をかき落とす。髪型(げんぱん)薬師を剃る。	4	1	1	5	11
	【7ウ】ひき出すで、すり抜く。ろくろで物をつくる。	4				4
【8】	【8ア】車輪に引っ掛けて車が大きい動物または物の上を走る。		1			1
	合計	30	15	48	104	197

「中心—派生・周辺」から見る分布

	小1～3	小4～6	中学	高校	全用例数	
【3】	【3ア】物を抜き取る。	1		7	8	
	【3イ】取りのけて減らす。引き算をする。	11	6	9	4	30
	【3ウ】(例として)選び出して示す。					0
【4】	【4ア】多くの中からさがして選び抜く。			1	1	
	【4イ】引っ張って移動させる。			1	8	9
	【4ウ】地をすって行く。引きずる(ように動かす)。			1	1	1
【5】	【5ア】途中で切らず長く運ぶ。	10	1	25	25	61
	【5イ】延ばして通ずるようにする。引き込む。			1	3	4
	【5ウ】一筋に続くものを受ける。			1	1	1
【6】	【6ア】延べ張る。張り渡す。					0

【3イ】における組み合わせる名詞の特徴

- 四十から5をひいて三十五。(数学, 小2)
- 六十二から五十六をひく。(数学, 小3)
- 4でわり, 1を十の位にたてる 4と1をかける 5から4をひく(数学, 小4)
- 外側の長方形から三角形をひいて…。(数学, 小5)
- $x + 3y$ の4倍をひいた差を求めなさい。(数学, 中2)
- 左の式から右の式をひいた差を求めなさい(数学, 中2)
- 2けたの自然数から、その数の各位の数の和をひくと9の倍数になります。(数学, 中2)
- 資料の各値から平均値を引いた値を偏差という。(数学, 高)
- 表の「>」は下の数値から上の数値を引く意味で、 $\Delta t = 30分1s$ である。(理科, 高)
- 生産者の成長量は、純生産量から被食量と枯死量を引いたものである。(理科, 高)

教科書別（全体像）

	国語	社会	数学	理科	全用例数	
【1】	【1ア】多くは種別・種族の「類」の属を持ち、自分の方に向ける。	2		40	45	
	【1イ】その物の方に向つて作用を及ぼす。			5	5	
	【1ウ】物の注意をそれに向かせるような働きをする。類・種をみる。	2	1	1	6	
【2】	【2ア】自分の体内に取り込む。	3	1		4	
	【2イ】出している手足を自分の方にもどす。また、足や体そのものの位置から自分の方に向かす。			3	4	
	【2ウ】もとの位置や状態に移しもどす。				0	
【3】	【3ア】物を抜き取る。			8	8	
	【3イ】取りのけて減らす。引き算をする。			27	3	30
	【3ウ】(例として)選び出して示す。					0
【4】	【4ア】多くの中からさがして選び抜く。	1			1	
	【4イ】引っ張って移動させる。	1	1		6	9
	【4ウ】地をすって行く。引きずる(ように動かす)。	1			1	1
【5】	【5ア】途中で切らず長く運ぶ。	1	10	32	14	61
	【5イ】延ばして通ずるようにする。引き込む。	1	3			4
	【5ウ】一筋に続くものを受ける。	1	1			1
【6】	【6ア】延べ張る。張り渡す。					0
	【6イ】弓つるに矢をつがえて張る。また射る。					1
	【6ウ】延べて張りつける。					1
【7】	【7ア】のこぎりで切る。特殊な刃物で削って物を作る。					0
	【7イ】爪薬師をかき落とす。髪型(げんぱん)薬師を剃る。	3	1			11
	【7ウ】ひき出すで、すり抜く。ろくろで物をつくる。	4				4
【8】	【8ア】車輪に引っ掛けて車が大きい動物または物の上を走る。	1				1
	合計	20	18	67	72	197



### 偏りの例【1ア】

- 軽い動滑車で同じ高さまで荷物を引き上げる場合、ロープを引く力は、2分1mg… (理科/高)
- リンゴがすりあうようにばねはかりを水平な3方向に引く。(理科/高)
- 糸をゆっくり引いたときと、急に引いたときとは違いがあるだろうか。(理科/高)
- 図十一 (a) のように、水平な床に置かれた物体を引いても、引く力が小さいときは物体は動かない。(理科/高)
- 釘に触れる直前と直後で、小球を糸が引く力は何N変わるか。(理科/高)
- 記録タイマーの紙テープを手で引き、手が動く速さを調べてみよう。(理科/中3)
- 台車にとりつけたばねを引いてはなしたときの運動 (理科/中3)
- ぬい終わり針とおさえを上げ、布を向こう側に引き、糸を切る。(技術家庭/小6)
- ひもを引くと、ゴムじかけで伸よく3匹が動き出します。(美術/中1)
- 長崎弁特有の柔らかい注意の仕方、原が私のオーバーコートの袖を引いた。(国語/高)

### 教科書に見られる「ひく」のまとめ

- ① 意味・用法が中心的か派生的・周辺的かは、教科書における出現頻度に直結しない。
- ② 学年・学校種のレベルが上がると、使用される意味・用法も広がる。
- ③ 特に<国語> <社会>では、幅広い意味・用法が使用されるが、<数学>や<理科>では特定の意味・用法に集中して使用される傾向がある。
- ④ 同じ意味・用法であっても、学年・学校種のレベルが上がると、組み合わせる名詞のパリエーションが増え、意味内容も難しくなる。

### JSL/Monoの語彙力調査の結果

辞書の記述	アイテム	JSL正答率 (%)	Monoとの差 (pt)	教科書中に見られる用例数	
				うち、同じコロケーション	
【3エ】	「辞書をひく」	74.2	13.3	1	1(100%)
【4ア】	「トナカイがそりをひく」	75.0	10.9	9	0(0%)
【1ア】	「綱をひく」	87.9	6.7	45	0(0%)
【3ア】	「くじをひく」	97.6	2.0	8	4(50%)
【3イ】	「5から3をひく」	98.4	1.1	30	17(57%)
【4ウ】	「線をひく」	98.4	0.5	61	52(85%)
【5エ】	「ピアノをひく」	99.2	0.5	11	6(55%)
【1エ】	「風邪をひく」	99.2	0.4	4	4(100%)

### 教科学習における日本語の壁

- JSLは、同じ一つの動詞であっても、その動詞が持つ様々な意味・用法を“広く”習得しているわけではない。
- <国語> や <社会> など、使用される意味・用法の広がり大きい教科書では困難を伴うのではないかと？
- JSLは、学校場面でよく使用される特定の名詞と動詞の組み合わせがよく習得しているが、特定の名詞を離れて自由に名詞を組み合わせることは（たとえ中心的な意味・用法であっても）難しい。つまり、一つの意味・用法を“深く”習得しているわけではない。
- しかも、組み合わせる名詞は（たとえ動詞の意味・用法は同じであっても、）学年・学校種のレベルが上がると、難易度を増す。
- 同じ動詞の意味・用法でも自由に名詞を組み合わせるのが難しいJSLにとって、<理科> や <数学> においても、組み合わせる名詞の難易度が上がれば、Mono以上についていけなくなるのではないかと？

### 今後の指導に向けて…

- JSLは、特定の名詞と動詞の組み合わせ（コロケーション）を高頻度でインプットされれば、たとえ動詞の周辺的な用法であろうと、抽象的な名詞との組み合わせであろうと、よく習得できるのでは。
- 必ずしも「難しい概念だから無理」なのではない。動詞の意味理解の“広さ”“深さ”にハンディがあることも考慮して指導することが必要

教科学習に大切な、注目してほしい表現（コロケーション）を強調した指導法や教材作り

- （語彙力調査の“伸び”についての考察から）子ども自身があまり経験しないことからの表現を意識的に指導することが必要

子どもの経験を増やしつつ言語インプットを与える指導法

### ①JSLの子どもの語彙データベースの作成

—今回の調査以外の語について—

### ① 語彙データベースの作成

- ・本研究の調査票作成の過程で作成したデータベース
- ・調査票に含めた動詞は31語のみだが、日本生まれ・育ちの子どもたちは、他にはどのような動詞や語を苦手として  
いる可能性があるか？
- ・調査票作成過程では、他にどのような語が候補になっていたのか？

### ① 語彙データベースの作成

- ・データベース作成の目的
- (1) 複数のJSLリストに共通する語彙、つまり小中高問わず、学校の学びに必要であろう語彙を抽出し、その傾向を探ること
- (2) JSLの子どもを対象とした語彙リストを、日本語モノリンガルの子どもの対象とした語彙リストと照らし合わせることによって、モノリンガルにとつての発達・学習段階の目安を得ること

モノリンガルの子どもにとつても  
難しい語と簡単な語がある

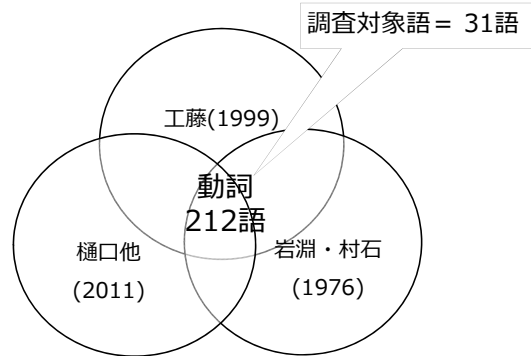
### ① 語彙データベースの作成

L2: 工藤 (1999)『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』	L2: 樋口ほか(2011)『進学を目指す人のための教科につながる学習語彙6000語』	L2: バラー(2010)『小中学生のための日本語学習語リスト(試案)』
L1: 国立国語研究所(2009)の教育基本語彙データベース、日本語を母語とする児童生徒指導のための7種の教育基本語彙をまとめたもの	L1: 岩淵・村石(1976)就学前幼児3名の縦断調査に基づく使用語彙リスト	L2: 旧日本語能力試験(JLPT)の語彙級(成人学習者向き)

図1: 本研究のために作成した「JSLの子どもの語彙データベース」

- ・調査対象語は、工藤 (1999) と樋口他 (2011) の共通語約1,400語 (うち動詞は573語) を候補とした。
- ・岩淵・村石 (1976) の約1,000語 (うち動詞は246語) を、日本語モノリンガルが就学前に母語習得過程で自然に身につける“簡単な”語の目安とした。

### ① 語彙データベース→② 調査票の作成



### ② 調査票の作成 (再)

多義動詞	かける きる さす たく おちる しめる, たつ, たて	
着脱動詞	かぶ	他にどのような動詞を 苦手とする可能性があるか?
自他動詞	あく	ずす
授受動詞	あげ	たてる
ポルトガル語と異なる動詞		れる
その他、難しい動詞	データベースが参考になる (⑥で、その一部を紹介)	どく, むすぶ
易しいと予想される動詞	あるく, およぐ, すわる, はしる, よむ	

### ⑥ 現場での支援への活かし方

フロアからのご意見？

### ⑥現場での支援への活かし方

本研究の結果は、どのようにJSLの子どもへの支援に活かせるのか？

MonoとJSLの間には和語動詞の産出力の差があり、JSLの苦手な動詞・用法の特徴として、「頻度」「経験」の少なさがあげられ、さらに「母語の影響」も見られる。

また、JSLが多義語の使い分けに戸惑っている様子も窺える。

### ⑥現場での支援への活かし方

・動詞以外に、他の品詞にも応用できるのでは？

→ 動詞以外にもデータベースは利用可能

・学校教科書での使用例の分析

→ 対象とする動詞を増やすことでさらに見えてくることがあるかもしれない。

### ⑥現場での支援への活かし方

・さらなる支援に活かすためには、今後、どのような研究成果・情報が必要か？

→ ⑦にもつながる

### ⑦今後のさらなる基礎研究の充実に向けて

・調査方法の改善・発展

→対面式の個別調査

→動画や複数のイラスト・写真を使っての動作の提示

・調査対象とする動詞・用法の拡大

⑥とも重なる

・調査対象とする品詞の拡大

→本プロジェクトの語彙データベースの活用

・調査対象とする言語項目の拡大（例：文法、音声）

・指導の効果の検証

特にモノリンガルには習得が難しいものに注目したい。  
→JSL/バイリンガルの子どもの特有の問題に焦点を当てた支援

### ⑦今後のさらなる基礎研究の充実に向けて

・日本生まれ・育ちのJSLの子どもの中にも、なぜ、難なく日本語を習得できる子と、そうでない子がいるのか？

個人差要因の研究

・子どもにとっても習得が難しい言語項目は、なぜ難しいのか？（参考：DeKeyser 2005, Harley 1993）

習得が難しい言語項目

・どうすればできるようになるのか？

指導の効果の検証

### 引用文献(3)

- ・岩淵悦太郎・村石昭三編(1976)『幼児の用語・用例集』日本放送出版協会
- ・工藤真由美(1999)『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』ひつじ書房
- ・国立国語研究所(2009)『教育基本語彙の基本的研究：増補改訂版』明治書院
- ・バトラー後藤裕子(2010)「小中学生のための日本語学習語リスト(試案)」『母語・継承語・バイリンガル教育研究(MHB)』第6号, 42-58
- ・樋口万喜子・古屋恵子・頼田敦子編(2011)『進学を目指す人のための教科につなげる学習語彙6000語(日中対訳)』ココ出版
- ・DeKeyser, R. (2005). What makes learning second-language grammar difficult? A review of issues. *Language Learning, 55, supplement 1*, 1-25.
- ・Harley, B. (1993). Instructional strategies and SLA in early French immersion. *Studies in Second Language Acquisition, 15*, 245-259.